

C- I -08 院内呼吸管理委員会 および呼吸サポートチーム（RST）の設置について

*麻生飯塚病院 救命救急センター **同院 RST ナース
○中村朋子* 鮎川勝彦* 鬼木美代子** 梅川あい**

【背景】

当院は福岡県にあるベッド数 1157 床の大型急性期病院である。年間 7,400 台の救急車を引き受けている。看護師数 884 名、人工呼吸器の保有台数は 58 台、1 日あたりの平均稼働台数は 32 台（平成 16 年度）で冬期には台数が足りず、レンタルすることもある。ICU・HCU などでは常時人工呼吸器を使用しているが、これら以外の一般病棟でも使用せざるを得ない状況である。最近では、患者の高齢化に伴い人工呼吸器装着日数の長期化、離脱困難例も増えている。これらの問題に対処するため職種・部署を越え院内全体の総合的な取り組みにより、呼吸療法の質の向上をするため、平成 16 年 10 月に呼吸管理委員会（15 名）という院長直属の常設委員会を設け、その下部組織として RST(respiration support team) のを設置した。その構成メンバーは医師、看護師、理学療法士、ME、栄養士、薬剤師からなる総勢 93 名の実働部隊である。特に看護師は各病棟から 1～数人を選出し（70 余名）病院全体のベースアップを図ることにした。（呼吸理学療法認定士優先的にメンバーとした。）人工呼吸器にまつわる多くの問題は、専門性を問うようなものではなく、医療者であれば、だれもが理解しておくべき呼吸の観察方法であったり、器具の基礎的な理解であったりした。

【方法】

これらの知識と技術を習得すべく、院内看護

師 177 名を対象に実習コースをおこなった。教育実習コース（off-the-job-training）、すべての受講者に、各種器具を実際に触れてもらう時間を多くとるため、少人数性（1 コースの受講者 4 人）とし、人工呼吸器は NPPV1 台、IPPV1 台を準備し、1 時間コースで実技を中心とした。インストラクターは RST メンバーがおこない、教えることでメンバー自身の学びとなるようにした。全 40 回（のべ 5 日間）コース開催となった（H16 年 10～12 月）。終了後には院長名で受講修了証を交付した。

【結果】

受講者に講習後の感想のアンケート結果では、大半がコース内容に満足し、さらなるコースの受講を希望した。

【結語と今後の課題】

1. 呼吸管理委員会・呼吸サポートチームを立ち上げ、看護師向け実習コースを開催した。その後、H17 年 7 月までに全看護師（約 884 名）対象に実施。2. 医師対象のコースも開発中。認定制度を検討中。3. 実働部隊である各病棟の RST のメンバーの果たす役割は大きく、院内全体の質の向上と事故防止に繋がると考えられる。4. NST・呼吸理学療法との連携し、適切な時期の介入によって、人工呼吸器の長期使用を未然に防ぎ、患者の早期社会復帰を目指す。